



- 発行所 -

日本聖公会婦人会

〒297-0032

千葉県茂原市東茂原 10-192

永井真由美方

TEL/FAX 0475-24-6915

発行者 永井真由美

日本聖公会婦人会 第28 (定期) 総会

2025 年 6 月 17 日(火)～18 日(水)

於：日本聖公会横浜教区 横浜聖アンデレ教会



総会プログラム

6 月 17 日 (火)

13:00 受付

14:00 開会礼拝

14:30 開会宣言

15:00 議事

18:00 夕の祈り

19:00 夕食

19:30

「能登半島地震から 1 年半」

出口崇司祭

20:45 就寝前の祈り

6 月 18 日 (水)

9:00 聖餐式

11:00 分かち合い

12:00 昼食

13:00 分かち合い

14:30 閉会祈祷

15:00 解散

第 28 (定期) 総会において次期会長選出教区に大阪教区が選出されました。日本聖公会の教区再編が進む中で、大阪、京都、中部教区から祈りのうちに私たち 6 名が呼び集められました。日本聖公会婦人会の長く続く歩みのなかで、変えてはならないこと、時代に合わせ変えなければならないことを、各教区の皆さまと共に考えていきたいと思います。教区を越えての役員会の働きに、お祈りとお支えをよろしくお願いいたします。

チャプレン：義平雅夫司祭

(大阪)

会 長：加納佳世子 (大阪)

副会長：山本久美 (大阪)

書 記：長井登茂子 (中部)

書 記：長谷川由季 (中部)

会 計：前田伸子 (京都)

会 計：高垣成美 (京都)



総会をふりかえって

日本聖公会婦人会 副会長 鷲沢和子

私たち横浜教区が日本聖公会婦人会役員会を担当して約 3 年が経ち、この度第 28(定期)総会を開催させていただくことができました。ひとえにお祈りくださった全国の会員の皆さま、お導きくださった聖職者のおかげと心から感謝いたします。

6 月 17.18 日の両日、横浜は梅雨明けを待たずにやってきた真夏日。過去 2 回の会長会よりさらに多くの 59 名の参加者とともに 14:00 の開会礼拝、14:30 より会議開始。報告・議事へと進行しスムーズに採決され、しかもすべての議案が満場一致で可決されたことは喜ばしい限りでした。最後の第 12 号議案は次期会長選出教区選挙の件。3 回の投票の結果、大阪教区が選出されました。大阪教区は私たち横浜教区の前の 3 年間、役員会を務めてくださった教区でした。

その後、被献日献金の報告と 2 件の審査。ミニバザーを経て 18:00 から聖堂で夕の祈り。司式・姜暁俊司祭のもと改定祈祷書による晩祷を心一つにお捧げしました。和やかな夕食のひとときを過ごし、19:30 からは「能登半島地震から 1 年半」と題して、京都教区能登半島地震対策室長の出口崇司祭からお話を伺いました。プロジェクターを使いながらの 1 時間あまり、穏やかな口調と微笑ましい写真の数々が、私たちに語りかけてくれました。きびしい現状の中にも、できることをしながら助け合っているしやる現地の様子を拝見し、私たちもこの地震を忘れることなく祈り、何か自分にできることはないかと

模索し続けることを心に留めました。

他者を思う気持ち、弱者に寄り添う姿勢は婦人会が発足した頃からの伝統であります。100 年以上も昔、初期婦人会を支えられた先輩会員

たちは、今の私たちよりずっと厳しい立場に置かれていたと想像します。発言権も乏しく、経済的にも今の世の中とは全く違う中で、婦人会の働きが継続されてきたこと。その重みを感じ、感謝箱献金、被献日献金を末永く継続し、大切に素早く待っている方々にお届けしなければと思いました。

2 日目の朝は聖餐式からはじまりました。司式・入江修 本会担当・横浜教区主教様。説教・上原榮正首座主教・沖縄教区主教様。4 名の主教様、10 名の司祭とともに心一つに織りなす礼拝を捧げる醍醐味は、日聖婦総会ならではの体験ではないでしょうか。この一年に逝去された会員のお名前を一人ずつ大切にお呼び祈りました。毎回、聖餐式の一体感には胸が熱くなります。

1 日目に報告・議事が全て終わったことから、2 日目は許される限り分かち合いに充てることができました。A から H までの 8 グループ、それぞれ 7 人前後に分かれて、そこには出席されたすべての聖職者も加わってそれぞれの思いを語り合いました。今回のテーマは「教区婦人会のこれから」です。現状を語り合うもよし、未来に向けて考えるもよし、お互いに何かを持って帰れるようにと願いました。

あつという間の 1 時間強が過ぎ、昼食タイムをはさみ、午後は各グループからの発表を共有し合う全体会です。高齢化、少子化、女性の有職率があがっていること。このような懸念は教会の運営と同じで、どうしても弱体化を感じます。そしてそれはコロナ禍をきっかけに加速。そんな中、ZOOM を活用した会議が普及したり、婦人会という女性中心の集まりから信徒全体へとすそ野が広がり愛餐会準備、掃除等の奉仕も男女に関係なくやるようになった…など新しい展開もありました。教区婦人会として捉えると、婦人会がある教会の数が全体の半数以下に。役員会に人を差し出せないのならば解散しましょう、という決定になることも。女性という枠をはずし名前を変えて再出発した会が、意外にもしりすばみになる、という現実も突き付けられました。それはまた女性のもつ情報ネットワークが不思議な力であり、かなりパワフルであることを表していると思います。個々の婦人会をつなぐところが教区婦人会でありさらに全国をつないでいくのが日聖婦。



婦人会の歩みに賛同し、かけがえのない友を作り、信仰について考え、助けを求めている人々のことを共有する場でありたいと思いました。

またぜひ聖職を巻き込もう、という話でもしました。お忙しいからと遠慮するのではなく、婦人会の様々な働きについて一緒に参加し、共有し、教会に発信していくのです。さらに日聖婦役員会会則についても話が言及、現会則をいま一度見直そうと、今回、議事録とともに日本聖公会婦人会会則をお送りいたしました。ぜひご一読いただき、皆さまで話し合う機会を持っていただきたいと思います。

全体会は活気を持ってすすみ、さらにいろいろな方にご意見を伺いました。笹森田鶴主教様から「日本聖公会は婦人会に支えられてきました。教会形成の、信仰の支えをしてきたのです」というお言葉があり胸が詰まる思いでした。ご飯をつくったりお掃除をすることが目的なのではなく、その向こうにみえるビジョンを明確化し、共有し、会の目的を誇り



大阪教区 小林聡主教

をもって確認するときなのです。代議員の皆さまが各教区婦人会から代表として送り出され、この総会から何かを持ち帰ってくださることを切に願います。

次期会長選出教区の大阪教区には、素晴らしいお力がみなぎっていると

思います。今、婦人会はかわりゆく時期。活動の内容であり、ネーミングであり、信徒のライフスタイルに合ったものが望まれています。しかし、この素晴らしい働きと伝統は守らなくてはなりません。そこを引き

継ぎつつ、ふまえた上で今の時代にあった形を模索し、次の 100 年を見据える時、そんな時期にふさわしい大阪教区が選出され、これ以上ないリーダーシップをみせてくださると確信しております。

いよいよ閉会のときとなり、14:30 から閉会礼拝後それぞれの帰路につきました。私自身のことをふりかえれば 10 年前の横浜教区婦人会、そしてこのたびの日聖婦役員会のお役を体験しなければ得られなかったたくさんのお恵みにあずかりました。信徒として本当に未熟な自分が誰よりも成長し、奉仕というには申し訳ないくらいの賜物をいただきました。これからは婦人会の足跡やお働きについて積極的にアピールしていくことが、自分にできることなのだと今改めて思います。最後にこの第 28 (定期) 総会 2 日間が皆さまのお祈りに支えられたことを深く感謝いたします。



可決された議案

	感謝箱献金お献ぎ先に関する件	お献ぎ金額
決議第 1 号 ～第 7 号	① サイディア・フラハ	40 万円
	② ムクウェゲ医師の社会啓発活動の支援	20 万円
	③ アトゥトゥミャンマー	20 万円
	④ 地域支援団体 釜石支援センター望	10 万円
	⑤ NPO 法人ワンダタイム	10 万円
	⑥ 国際子ども学校 (ELCC)	20 万円
	⑦ ヘリ基地反対協	10 万円
決議第 8 号	2022 年度から 2024 年度会計決算承認の件	
決議第 9 号	2026 年度から 2028 年度感謝箱献金事務局 (コア) 運営費予算の件	
決議第 10 号	2026 年度から 2028 年度一般会計予算の件	
決議第 11 号	特別会計 (スカラシップ積立金) の件	
決議第 12 号	日本聖公会婦人会次期会長選出教区選挙の件 3 回目の投票で大阪教区を選出	

婦人会 ～ いままで、そしてこれから

日本聖公会婦人会担当主教 横浜教区主教 入江修

2022 年の日本聖公会婦人会（以下、日聖婦）総会で横浜教区がその会長選出教区となり、私も今年の 6 月までの 3 年間、担当教区の主教として関わらせていただきました。実務は、会長の永井眞由美さんを初めとする役員の皆さんとチャプレンの姜司祭がしっかりと担ってくださり、その働きに感謝です。

その間、2 回の会長会、そして 3 年目の今年 6 月には総会が開かれ、教区婦人会のある教区から代議員と傍聴者の方々が横浜に集まりました。その中で毎年、話題になっていたのは、これからの婦人会のあり方でした。

既に東京教区と九州教区は組織としての教区婦人会はなくなりましたが、有志の方が個人会員や一教会として、あるいは、教区における日聖婦の窓口として、今も繋がってくださいます。

そして、今年の総会での次期会長教区選出のための選挙では大阪教区が選ばれ、正副の会長は大阪教区からとなりましたが、他の役員は中部と京都から選任され、三教区協働による日聖婦役員会の構成となりました。

今後も、一教区だけで日聖婦の役員会を構成するのが難しい状況になりつつあるでしょう。それは、各教区の婦人会の役員会も同じ状況なのだと思います。

横浜教区の事例で恐縮ですが、横浜教区では 2 年任期で各地域毎に教区婦人会の役員会を持ち回りで担って参りました。しかし、婦人会組織のない教会が

増えつつあり、そのような形で教区婦人会の役員会を維持していくことが困難になりつつあります。

確かに、「婦人会」のあり方が昔から続けられてきた形のままでは続かなくなっているのは事実であって、今まで婦人会が担ってきた働きの多くの部分が、これからは今までの固定観念を改めて、性別には関係なく、むしろ何をするかというところでもいろいろな働きが期待されてゆくことになるでしょう。

そうすると、日聖婦も各教区の婦人会も、そして各教会の婦人会もまた、新たな組織形態へと移行していくことが自ずと求められてきております。

しかしその一方で、神さまの導きと祝福の下、今まで教会においてその大きな働きを担ってきた婦人会の歩みもまた、私たちは大切にしていかなければなりません。

そのような婦人会の歴史を顧みつつ、神さまのみ栄えを現すためにどのようにしてゆけばよいのか、これからご一緒に知恵を出し合って考えて参りたいと思うところです。



お 知 ら せ

第 28 (定期) 総会後第 1 回会長会

日時：2026 年 6 月 16 日 (火) ～17 日 (水)
会場：未定



婦人会が存在するという事

日本聖公会婦人会 チャプレン 司祭 姜暁俊

皆様のお祈りとお支えのおかげで、無事に3年間の日本聖公会婦人会チャプレンとしての任を終えることができました。この紙面を借りてお支えくださった皆様、特に日本聖公会婦人会役員会の皆様と、日本聖公会に連なるすべてのご婦人の方々に感謝申し上げます。

ここで一つ、皆様にお伝えしたいことがあります。実は私は日本聖公会婦人会チャプレンとして務める前までは婦人会の存在意義に疑問を抱いていました。私がそう思っていたのは教会の中で婦人会という女性の組織があること自体、現代社会の中であまり意味の無いように映ったからでした。教会の中で女性だけで構成されている組織がある背景には主に家庭の仕事をする女性が教会の奉仕に関わりやすいという事情があったと思います。日本だけでなく、韓国でも教会の奉仕の主体になっていたのは歴史的に女性でしたし、大勢の宣教師が活躍した時代に宣教師たちのために祈り、金銭面で支えたのも本国の婦人たちが構成された後援会でした。しかし時代が変わり、女性の社会進出が増えるにつれて、昔みたいに必ずしも女性が教会の奉仕に専念できる時代ではなくなりました。そのような社会状況を考えると女性だけで構成された、奉仕のためのグループが存在するというのも疑問に感じましたし、私自身、「キリストにあずかる洗礼を受けたわたしたちは男性も女性もない」(ガラテヤの信徒への手紙 3:28) と思っていますので、教会の中で性別で独立された何かを作ることには違和感を持つところもありました。

しかし、日本聖公会婦人会のチャプレンを務めて日聖婦の様々な活動に関わりながら私が持っていた考えも変わってきました。今は「日本聖公会に婦人会があるのは大きな意味があって、これからもこの活動は続けていかなければならない」としています。

日聖婦の活動は大きく分けて「被献日献金」そして「感謝箱献金」と見ることができると思います。これらの活動すべては教会内の宣教活動を支えること、そして世界中の様々な支援が必要な社会活動を支えていくことであると思います。単純なプログラムの支援ではなく、その活動を通して神の愛が世界中に宣べ伝えられ、神が良しとされる尊いいのちが生き生きと過ごすことによって神の栄光が世に顕れる尊い宣教活動です。そしてその宣教活動を支えていく主体が『女性』であることに意味があるのです。

日本聖公会の正義と平和委員会の中のジェンダー・プロジェクトでは、『女性』とはあらゆる社会構造の中で、立場が弱くされている人たちの一つのグループである」と捉えています。単純に性別としての女性ではなく、社会の中で弱い立場の人たちという意味で「女性」という表現を使っているとの説明です。未だにこの日本社会では女性は社会の中で弱い立場にいられていると言われています。弱い立場だからこそ、共に集い、信仰の悩みや生活の悩み、仕事の悩み等を話し合いながら生きる力を得る。弱い立場だからこそ、世界中の生きづらさの中にいることを余儀なくされている人びとを支えるために力を合わせる。これこそ日本聖公会に婦人会が存在する大切な意味ではないかと、私はこの3年間の働きを通して感じました。

どうか、日本聖公会婦人会がこれからも日本社会のみならず全世界の社会的弱者を大切にし、支えながら世の一番低きところで働かれる神の宣教の道具として用いられていくことをお祈りいたします。



新しい歩みへ

日本聖公会婦人会 会長 永井眞由美

2022 年 9 月に武藤謙一首座主教様より任命をうけ、10 月に前役員会(大阪教区)から引継ぎを受けました。

前役員会は新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、2 回の会長会は主にオンライン会議、総会で初めて対面と大変ご苦労されました。お蔭さまで私ども今期役員会はパンデミックも下火になり、第 1 回会長会は細心の注意のもと、出席者のご協力により対面で無事開催できました。その後も第 2 回会長会、第 28(定期)総会も対面で開催出来ました事は感謝です。

この 3 年間、2 回の会長会、総会での分かち合いで話し合われた事やご意見は会員の高齢化、減少、女性のライフスタイルの変化などにより後継者の不足など・・・教会婦人会の維持が難しく閉会する教会婦人会が多く、それに伴い教区婦人会も大変苦慮しておられるということでした。婦人会ということではなく、今まで婦人会が担ってきた働きを信徒全員で共に担う教会が増えてきていることから名称を婦人会ではなく独自の名称に変更されています。また伝道教区として歩まれる事を選ばれた教区もあります。このような現状を考えますと日本聖公会婦人会も変革の時が来ているのではないのでしょうか。

また、総会で日本聖公会婦人会の現行会則を先ずは見直してはどうかと言うご意見が出ました。8 月に各教会婦人会へ第 28(定期)総会決議録に現行会則を同封致しました。初めてご覧になる方もおられるのではないのでしょうか。皆さまでご一読頂き、話し合ってくださいと思います。会則の変更は、総会で出席議員の 3 分の 2 以上の同意を要します。(会則第 8 章第 32 条)

終戦翌年 1946 年 8 月に「日本聖公会婦人伝道補助会」の「再発足のための協議会」が開かれ、名称を取り敢えず「日本聖公会婦人補助会」へ変更。10 月に会則草案が創られ、1947 年 5 月、第 2 回総会で修正・決議され、これが総会毎に少しずつ軌道修正され現行会則は 1974 年の第 11(定期)総会で制定されました。同時に名称も「日本聖公会婦人会」に改称されました。この 50 年の間、改正、一部変更を重ね現在に至っています。

この半世紀、大きく社会状況も変わり特に女性を取り巻く状況の変化には大きいものがあります。教会でも同じ様な状況です。分かち合いでのご意見がその事を表しています。会則の見直しは時宜を得たものと言えましょう。

次期役員会も会長選出教区の大阪教区から会長、副会長、京都教区から会計、中部教区から書記が担われる三教区協働という新しい体制です。このように日本聖公会婦人会も新しい歩みを踏み出そうとしております。

日本聖公会婦人会の目的「まことの平和をつくりだすために、日本聖公会に連なる婦人信徒が共に神の宣教のみ業に参加すること」(会則第 1 章 4 条)を心に留め、これからも女性のネットワークを大いに生かして、学び合い、厳しい状況にいる方々に寄り添い続けることを大切に、新しい組織を考えて行く中で、きっと良き道が備えられている事と思います。

この 3 年間、微力な私たちをお支え、お導き、お祈り下さいました皆さまに心よりを感謝申し上げます。

～ それぞれの教区から～

北海道教区 被献日献金の賜物—活用申請（有志グループ枠）を受けて—

北海道教区旭川聖マルコ教会婦人会

広谷栄子

北海道の真ん中、旭川市江丹別（えたんべつ）をご存知でしょうか？この江丹別の緑あふれる自然の中で、主を賛美し、交わりを深める集いを計画したのです。

6 月 24 日、婦人会会員に限らず広く教会の皆さんに参加を呼びかけ、信徒 4 家族が長年酪農、畜産に携わっている教会からおよそ 40 分のところにある江丹別へ出かけました。



6 月にしてはとても暑い日でしたが、「荒川牧場」のチーズショップを貸切り、下

澤司祭のギター伴奏で礼拝。続いて数年前に「オサラッペ牧場」を閉じられた荒川信基さんにお話をいただきました。若くして江丹別に入植、牛肉本来の味を求めて珍しかった短角牛を自然放牧によって飼育された経緯や牧場を始められたころの思い出等々。また「荒川牧場」の荒川えりさん（ご主人は信基さんの弟さんです）の、搾乳後の牛乳がどのような流れで食卓に届くのか？のお話し。楽しい絵を見ながらの説明に改めて生産者のご苦勞を知らされました。

いよいよ「バター作り体験」です。ペットボトルに

搾りたての牛乳を入れてシャカシャカ振って、振って…バターができ上がったのです!! できたばかりのバターをパンに塗って、搾りたてのフレッシュミルクと一緒に昼食。

貴重なお話、楽しい体験、感謝の祈り。参加者 20 名、それぞれ満たされて帰途に着きました。神様から与えられたこの豊かな自然と人間の優しく生きる営みが次世代、次々世代と繋げて行けるのだろうか？人間に与えられた知恵の使い方が違う方向にドンドン行っているのではないかと考えさせられる毎日です。世界中で戦争が続き、飢餓に苦しむ人々、愛する人々を戦場に送り、涙する人は増える一方です。平和を祈り、多くの恵みが与えられていることに感謝したいですね。そして、参加者一同「活用資金」を与えられたことに心から感謝しております。ありがとうございました。

参加者の声です。

「お天気が良く、いつもとは違う雰囲気の中、皆と食事をし、話を聞いて楽しく過ごすことが出来ました。



このようなひとときを大事にしたいです。」

フランス

井上恵子

東北教区

東北教区婦人会 会長 赤坂康子

昨年末の主教座聖堂のある仙台基督教会婦人会の解散に伴い、東北教区では多くの教会の婦人会の解散がありました。会員の高齢化で教会での婦人会としての活動が出来なくなったことが主たる理由です。日本聖公会婦人会からの脱会も考えられましたが、このまま教区婦人会を継続したいと強く希望される

方もあり、今年 2 月の東北教区婦人会総会にて役員会は今までの岩手県がそのまま引き継ぐこと、婦人会が解散した教会から新たに個人会員を募集して、この会の目的に賛同する有志の個人会員での集まりを主として継続を試みることになりました。2028 年度に東北教区は北海道教区との合併を目指していま

すので、婦人会も会則改正や会計関係の調整等が考えられます。その時までこの会として出来る事、婦人会としての未来への方向性を考えていけたらと考えています。

今年度の私達の役員会の合言葉は「ゆらり、ゆらりと」です。決めつけず、周りを見ながら、婦人会として必要なことを見極めていく気持ちです。現在の会員数は 38 名、集まる会費も少なく大きな活動はできませんが、目標はお互いの繋がりを大事にして教区の活動、日聖婦への協力、管区女性デスクからの情報の伝達等としています。先日会員に向けて、教区婦人会の通称名と、会費、会への希望等についてのアンケートを取りました。通称は「ゆらーり」と決まりそう



2025 年 8 月 ミニフェスティバル
(10 月) のポスター完成 役員会

です。

10 月 18 日 (土) には盛岡聖公会と仁王幼稚園に於いて「ミニフェスティバル in 盛岡」を開催する予定です。婦人会会員の他に各教会へもご案内し、教区内交流を深めます。「釜石支援センター望」代表の海老原祐治さんのお話、参加者持ち寄りご当地御自慢ミニバザー、盛岡聖公会聖歌隊・オルガニストによるチャーチコンサート等を計画しています。

大きな他教区の婦人会に支えられまして、皆さまの仲間に入れていただいていることを感謝申し上げます。



2024 年 2 月 22 日笹森田鶴主教様、吉谷かおるさんをお迎えして、東北教区婦人会第 40 回総会・研修会

北 関 東 教 区

北関東教区婦人会 会長 秋葉緑

北関東教区婦人会の一年は 2 月の総会から始まります。コロナ禍では集まることすらできませんでしたが、ここ数年は傍聴者も増えて和やかです。高橋教区主教様のお話を直接うかがえるのも楽しみになっています。席上で北関東教区婦人会創立 100 周年記念ファイルの制作を決めました。行事ができなくても何か記念になるものをとの思いが形になったと言



えます。

5 月 3 日には、北関東教区「信徒一致の日」合同礼拝で教区婦人会主催のバザーを行いました。東京教区や関連団体 (リグリマジヤパン、アジア学院等) の出店もあり賑わいました。

飛び入りで主教・司祭・信徒合同の合唱団「ザ・ビエル」が歌を披露するというハプニングもあり、大喝采を浴びただけでなく、歌の「投げ銭」をバザー献金にしてくだ

さり感謝。
5 月 28 日には京都教区退職司祭井田泉先生を講師にお迎えし、静想



日を行いました。北関東教区にはヨハネ修士会の修道院だった小山祈りの家という祈りの場があります。この場を活用し、共に祈ることを続けたいと願っています。

昨年 8 月末に始めた会長による各教会訪問も無事に終わりました。会長が日曜日に各教会を訪問、教区婦人会の活動をご説明し、この活動を教区婦人会だけでなく教会全体の活動として捉えてくださるようお話ししました。

コロナ禍を挟み、教区婦人会の存在や活動につい

てわからなくなっている教会があることに危機感を感じ、訪問を始めました。伝えるべきことを伝え、各教会の現状を知ることができ、今後に向けての視野が広がりました。ご協力くださった全ての方々に感謝します。

2026 年以降の東京教区と北関東教区の新教区設立を見据え、考えることがたくさんあります。ファーストペンギンになるであろうことを頭に入れて、今後の歩みを進めてまいります。

横 浜 教 区

横浜教区婦人会 会長 林洋子

現在横浜教区は、4 県ありますが 1 県は既に婦人会がありません。また各教会も教会の大小に関わらず婦人会のない教会が増えてきました。婦人会はなくなってもそれに代わる奉仕の会、教会委員会が受け皿になり、婦人会の働きが継続されている教会もあります。どの教会もここ数年は婦人会のこれからについての話し合いが行われております。

今年度は、女性の集い（親睦会）を開催しその中で短い時間ではありましたが、婦人会の現状、未来につ

いて話し合い、同じ悩みについて意見交換しました。この交流の場が大切だと思われた方々がたくさんおり、話し合いの結論は出ませんが、集う場があることの重さを感じました。

また分担金の減少により、経済的に今

後の活動が計画通りに出来なくなる日が近いのが現状です。これまでに先輩の方々が築いてこられた婦人会、何を大切にし、その働きをどうしたら守っているのか、婦人・女性に限らない活動の方法等を含め、早急に検討する時期にきています。教区・教会・婦人会に携わってこられた方々とともに考え、働きが婦人会員の減少、また社会生活の変化に対応して信徒ができることをできるところで 喜びをもって活動し歩んでいけますように神様のよき導きがありますようお祈りいたします。



中 部 教 区

中部教区婦人会 代表役員 諸岡千佐子

今年中部教区は、宣教 150 周年を迎えています。宣教 150 周年の記念行事の一つに「カナダ聖公会から中部教区への贈り物—アングリカニズムと社会に向けられたまなざし—」というタイトルで、西原廉太主教とリンダ・ニコルス主教(カナダ聖公会前首座主教)が対談されたシンポジウム動画があり、中部教区

にある 3 つの伝道区（愛岐伝道区、長野伝道区、新潟伝道区）ごとに視聴する機会を持ちました。愛岐伝道区では、9 月 6 日（土）午後 1 時から伝道区婦人親睦会の研修企画として一宮聖光教会で開催しました。一宮では 2022 年に聖堂とルシアハウス（信徒会館）が新築されました。自然光が窓から差し込み、木



の質感に富む、清々しさを感じる教会です。

まず、シンポジウム動画の視聴で始まり、中部教区の誕生と関東大震

災直後にウォーラ司祭による日本の宣教課題の論考などが西原主教より紹介され、草創期の宣教師たちの苦闘と崇高な使命に思いを馳せました。リンダ・ニコルス主教からは、ご自身の教会生活や司祭・主教となられた中でのカナダ聖公会の宣教理解について、大変丁寧にお話下さいました。「ミッシオ・ディ」(神の宣教)という神学的な宣教論にも言及され、「日々のあらゆる状況の中で深い喜びを持ちながら、心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして神を愛し、隣人を自分のように愛すること」です、という励ましがあり、私はこの内容にとっても親しみを覚

え大きな励ましとして受けとめました。次に、聖歌を歌う会として、西原主教より聖歌第 2 番【第 1 譜】【第 2 譜】、第 517 番に関連するお話の後、皆で聖歌を歌いより豊かな賛美になるという体験をしました。最後にリコーダーアンサンブルウィーンの方々による 4 種類のリコーダー演奏を楽しみました。中部教区宣教 150 周年記念感謝礼拝を目前に、大変有意義な研修と親睦が与えられ感謝いたします。



京 都 教 区

京都教区婦人会 代表 高垣成美

京都教区婦人会では、伝道区ごとのいくつかの教会のグループで輪番制を取り事務局をになってきました。2013 年から 2 年ずつ、現在の「京都・若丹伝道区④」で一巡が終わります。

その後のことについて、何年前から「考える委員会」を立ち上げて検討を重ねてまいりましたが、その間にも婦人会のある教会の減少、登録会員の高齢化などで輪番制そのものが維持できなくなりつつあります。昨年秋の時点で 2027 年以降事務局に人を出せる、という教会は 7 教会から 1~2 人ずつ、というにすぎず、なんとか 2030 年までの 2 つのグループを組み、その間に婦人会そのものを考え直そうということになりました。

事務局を担うにあたっては、「2 年の任期の間に大会を開催する」という会則がとても大きな重荷になっています。けれども、「大会」、皆で集う礼拝、修養会、講演会や交わりのひとときは大切に守っていかないとならないものだと思います。

どうしても守っていききたい大切な働きを維持する

ために私たちが今検討しているのは、

- ・少ない人数でもできる事務局運営のためにスリム化を計り、シンプルな事務局をめざす
- ・会員登録のない教会には、司牧されている教役者の方をお願いをしてご協力いただく。被献日献金、感謝箱献金などのとりまとめをおねがいし、また、大会や修養会、礼拝などを会員限定にせず教会に連なるすべての皆様にご案内して、参加いただけるようにする。

・しなければならないことを数えるのではなく、できることをやっていく、婦人会は楽しいものだと思います。してもらえるように、自分たちが楽しむ等々です。

折りしも、京都教区では今年 3 月の主教辞職から、伝道教区への道を歩みだそうとしています。他教区との交流、協働の機会も増えていくことでしょう。

神さまはいつも私たちの傍らにいてくださると信じて、私たちも新しい一歩をふみだせればと思います。

大 阪 教 区

大阪教区婦人会 会長 辻 節子

大阪教区では、4 月に主教按手式が行われ、小林聡主教が着任されました。6 月の日本聖公会婦人会総会で、思いがけず大阪教区が会長教区に選出されましたが、これを一番喜び、他教区との協働へと励ましてくださったのが、新主教です。9 月には、大倉有紀聖職候補生が執事按手式に臨まれ、女性教役者がもう一人増えます。私たちも新主教、新執事と共に、神さまのご用のために前を向いて歩みたいと願っています。

大阪教区婦人会の近況としては、5 月末に昇天日礼拝と第 101 回総会を大阪聖ヨハネ教会で開催致しました。総会出席者は 75 人で、バザー出店など、会員相互の良き交流の場ともなりました。



6 月には、私たちが大切にしてきた働きの一つ、ミス・ブール記念ホーム（特

別養護老人ホーム）での喫茶奉仕が行われました。コロナ禍での中断を経て昨年再開されたもので、秋にもう 1 回を予定しています。教区婦人会ならではのご奉仕を、今後も続けていきたいと思っています。

8 月 9 日の長崎原爆記念日に向けては、今年も長

崎聖三一教会に折り鶴の色紙（しきし）をお献げすることができました。これは長崎で被爆された大阪教区の松岡度一退職司祭の呼びかけで始まったもので、複数の教会と団体が毎年折り鶴を折って平和祈念の輪に加わっています。

教区婦人会では折り手の確保が難しくなり、昨年から色紙の形にしています。戦後 80 年の節目となる今年、かわりあい、折り続けることの大切さを、いつも以上に感じているところです。

今期役員の任期は 2027 年までですが、会長選出方法や運営体制など、次の世代に引き継ぐための変革が課題です。昨年立ち上げられた「今後の教区婦人会を考える会」からの提言を基に、現在、会則改定に取り組んでいます。教区婦人会がつないできた大切な働きはそのままに、今の時代に合った仕組みに変え、教会・教区・教派の垣根を越えて、ささやかでも真の平和に連なる存在であり続けたいと願っています。



神 戸 教 区

神戸教区婦人会 代表 溝川いずみ

2026 年 5 月、約十年ぶりに教区婦人会大会が米子にて行われるため、米子聖ニコラス教会婦人会を中心に準備が進んでいます。今までに二回 Zoom で事務局と米子を繋ぎ情報交換を行いました。コロナ禍で間が空いたことと、事務局役員の婦人会経験が浅いことなどが重なり、進捗状況の確認がスムーズに行われているとは言い難いですが、知恵を出し合い来年実りある大会になるよう願っています。

ここ 10 年で会員数の減少と高齢化がさらに進み、

今後の大会の在り方を話し合う時期に来ていると強く感じています。昨年教会婦人会にアンケートを取りましたが、直に意見を聞く機会が必要だとの声が役員内から上がり、有志がいくつかの教会に足を運びました。礼拝をご一緒し交わりのひと時を持つことで、事務局の考えを直接伝え、教会婦人会からは貴重な意見を頂戴することができました。教会婦人会の無い教会にもお邪魔し直接会ってお話しさせていただくことで、婦人会の皆さまだけではなく、女性の

方々が各々の教会でどのような働きをされているか、教えられることが多かったです。

来る 9 月 20 日(土)には、神様のお導きのもと新しい主教が与えられます。奇しくも、来年神戸教区宣教 150 年、教区婦人会設立 80 年という年ですので、新しい主教のもとで喜びと感謝を持って 2026 年を迎えることになりましょう。

今現在の教区婦人会の働きが、10 年後 20 年後の教会が繋がっていく一助になると信じ一人一人が

前を向いて歩いていけたらと思っています。教区内を見ますと、教会単位で組織して教区と繋がる婦人会ではなく、女性信徒と教区の繋がり女性信徒同士の交わりに目を向け、個人会員について検討を始めるべきなのかもしれません。

記念になる大切な年を、教区婦人会代表として過ごす機会を与えられたこと感謝しつつ、働き一つ一つが神様のお考えに沿っているか、常に問いかけながら過ごしたいです。

沖 縄 教 区

沖縄教区婦人会 会長 佐久川まさみ

日本聖公会婦人会第 28 (定期) 総会に向けて、各地区から参加者が集い、語り合い、祈りの時を重ねて始まりました。

総会において、各教区から提出された提出議案のテーマは、様々な立場で平和を作り出すこと、支援すること人間の安全保障を願う決議事項でした。世界各地で武器を取り、多くの尊い命が奪われ、難民キャンプと生活の場を失っています。いのちの尊厳が蔑ろにされるような出来事があとを絶ちません。日本聖公会婦人会も平和を作り出すこと、いのちの尊さ、いのちを育むこと大切なこととして支援活動しています。いのちを、育み、守り生かしていく大きな責任が、今日を生きる私たち日本聖公会婦人会の共同体にあると考えています。

聖書が描く「平和」は、新しく起こってくる出来事に向き合い、対話をし支援することを続ける状態であることを示しています。平和は、力によって保たれるものではないからです。「平和」は、単に戦争がない状態ということではなく、一人ひとりの命と尊厳が守られ、命の営みがなされる状態だといえます。生活している社会の中に貧困や差別、人権侵害、あらゆる暴力がなくなる状態を平和と定義しています。聖書のシャロームと重なります。

聖書の歴史を貫いて、荒ぶる物語のただ中での引き裂かれるばかりの葛藤と激しい格闘を経て、聖書のシャロームは、受け継がれ、語り継がれ、魂の礎とされて今日にいたっています。私たちは、そういう聖書の民の信仰に連なっています。

「これらのことを話したのは、あなたが、わたしによ

って平和を得るためである。あなたがたが、私によって平和を得るためである。 ヨハネ 16:33」
私たちは、地上の旅人として、今という時代にあって「平和を造り出すもの」とされている共同体です。日本聖公会婦人会のその根底には、いのちの尊厳、いのちの存在を慈しみ守る精神が流れています。貧困問題の解決、地球環境の回復、ジェンダーの構築とキリストにある私たちは、神さまが、望まれる平和を作り出す者として平和を届ける役割を果たすために、役割を持って、いのちの問題について取り組んでいます。

今回の総会において、沖縄教区婦人会も沖縄県辺野古埋め立て基地反対運動の働きの為の支援を要請しました。満場一致で支援をお届けいたします。ご協力をいただき感謝申し上げます。

戦後 80 年の節目の年、沖縄教区婦人会テーマは、「平和」において他にないと考えました。沖縄戦では 20 万人超の方々が、亡くなりました。住民の死者は全体の 6 割。住民の生活の場が戦場となり軍民混在する状況に置かれた上に、「集団自決」や日本兵による壕からの追い出し、スパイ容疑で殺害される事態となりました。一般住民が 9 万 4 千人、「軍人・軍属」として招集された防衛隊や学徒隊が、約 2 万 8 千人、合わせて約 12 万 2 千人が命を奪われました。沖縄の先人たちが、体験した戦争の痛みを、再び味わうことだけは決してあってはならないのです。「命どう宝」この沖縄の先人たちが思いを、揺るぎないものとして、あらためてお伝えしたいと思います。そして、2 度と戦場にさせないためにも私達は、ここ沖縄の辺

野古新基地建設現場の地図情報が、私たちに「平和」を共に考える時間になりましたら幸いです。日本聖公会婦人会の群れとして、これからも共に祈り励ま

し合いつつ、平和を造り出す役割を担っている日本聖公会婦人会であることを覚えます。

九 州 教 区 有志グループ近況報告にかえて

九州教区女性の課題担当者 柴田康子

第 28 回 (定期) 総会に有志グループとして出席させていただきました。皆様に親しく歓迎を受け緊張がほぐれました。

2 日間のスケジュールの中で、各教区の婦人会がそれぞれに抱えている様々な事柄を聞かされたことには驚きを覚えましたが、その背景にあるのは、どの教区にも直面している信徒の高齢化、女性会員の減少、次世代に繋がらないなどということだと思いました。私たちは 6 年前に脱退を選択しました。今は有志グループとして繋がっていますが、脱退して初めて組織の大切さを思います。

九州教区は、新主教を、そして新主教座聖堂完成を皆様のお祈りと献金に支えられ、与えられ

ました。

今新たな一歩を踏み出そうとしています。各教会そして教区全体の現状を見ると困難なことが山積みですが、女性の働きは小さいながらも力強い役割を担っています。

日聖婦の感謝箱献金を中心にした働きに参加することは、私達小さな集団にも様々な出会いを体験し、信仰生活を豊かにできます。秋には柴本孝夫新主教を迎え集まりを計画しています。顔と顔を合わせて語り合う中できっといろいろな話が出てくることでしょう。御心に叶う働きにつながりますようにと願っています。



日本聖公会婦人会宛の振込先

会費・被献日献金・感謝箱献金は下記までお振込みください。

ゆうちょ銀行

加入者名：日本聖公会婦人会

口座番号：00240-2-52405



日本聖公会婦人会 HP

※通信欄に振込内容（会費・被献日献金・感謝箱献金）、金額、教会名、お名前をご記入ください。

感謝箱献金だより

ガリラヤのほとり 44 号



2025 年度 感謝箱献金 お献げ先

サイディア・フラハ

ケニアのキテンゲラ市にある子どもと女性の福祉活動をする NGO 団体。児童養護施設と幼稚園、小・中学校を運営。養護施設では、極度の貧困や親の病気等のために養育できない女子を受け入れ、教育と将来の自立のための支援を行っている。現在の入所者は 11 人（小学生 4 人、中学生 1 人、高校生 5 人、職業訓練学校生 1 人）。感謝箱献金からの支援金は、授業料と子供たちの世話をする寮母や様々な相談に載るソーシャルワーカー、夜警の費用に用いられています。

また、アフリカに興味を持つ日本人を、ボランティアインターンとして施設に受け入れ、滞在中に自分の得意なことを通して、子どもたちと交流する機会を持っています。けん玉や折り紙をする子どもたちの様子を定期的に行われるオンラインで見ることができます。ケニアは若い世代の人口が多く、活気があります。しかし、貧富の差が激しく、希望する仕事に就くことは大変困難です。Z 世代の若者は政府への不満を SNS で発信し、全国各地で反政府デモが発生します。同時に商品の強奪や発砲事件が起きるため、施設の責任者である荒川氏は子どもたちの安全を守ることをいつも最優先に考えています。



日本の NPO 法人

RITA-Congo (リタ・コンゴ) を通じて
ムクウェゲ医師の社会啓発活動を支援

アフリカの中央に位置するコンゴ民主共和国は、金・ダイヤモンド等の鉱物資源が豊富な国。また、私たちの生活に欠かせないスマホやパソコンゲーム機、バッテリーなどに必要なレアメタルも多く産出する。これらの鉱物資源を巡り、周辺国から武装勢力の侵入が絶えない。住民を追い出し、土地を奪うために、女性や子どもたちが性的暴力の被害に遭う。産婦人科医のムクウェゲ医師は治療を続ける中で、性的暴力が鉱物資源の搾取と深く関係していることに気づき、「紛争鉱物の公正な資源利用を求める」ことを世界に訴え、ノーベル平和賞を受賞した。日本でもこの問題に関心をもち、アフリカの事情をよく知る華井和代氏と米川正子氏が、NPO 法人「RITA-Congo」を立ち上げ、調査・研究・講演活動などを通してこの問題の解決のために活動が続いている。岩波ジュニア新書『ムクウェゲ医師、平和への闘い』をお薦めします。

「アトゥトゥ ミャンマー」

国軍によるクーデターから 4 年半、ミャンマーの民主化への道は閉ざされたまま。今年 3 月 28 日、ミャンマー中部で大地震が発生。空爆の被害で故郷を離れて仮住まいを続けている人々も被災した。アトゥトゥミャンマーではすぐに「ミャンマーを覚える祈り会」を通じて、祈りと緊急支援を呼びかけた。これまでの活動のネットワークを生かして、必要な人々に確実に届く方法で生活に必要な水や食品、日用品などの支援が続いている。国連の調査によると、6 月現在のミャンマー国内避難民は約 200 万人。希望していた竹を編んだ高床式のシェルターが完成し、地面の生活から解放された人々に笑顔が見られた。クーデター前、多くの日本企業がミャンマーに進出していたため、日本にも多くのミャンマールーツの人々が暮らしている。最近、留学生や技能実習生として来日する若い人たちが増えている。徴兵制施行中のため、帰国困難となる人々への支援やタイ国境付近に避難中の子供たちが通う「移民学校」の昼食支援も継続中。

共同代表の渡邊さゆり牧師はこれまでをふり返り「多くの困難があっても、私たちはミャンマーの人々とアトゥトゥ＝ともに、これからも私たちにできることを続けていく。共に歩むことを辞めない。」と祈り会の中で話された。

地域支援団体 釜石支援センター ^{のぞみ} 望 東北教区

2011 年 3 月 11 日に起きた、東日本大震災による津波の被害と津波が引き起こした東電の原発の爆発事故による放射能汚染は、現在も廃炉作業が困難な状態である。そのために、自宅に戻ることはできず、災害被災者住宅に住む方や転居をされる中で地域のコミュニティーがバラバラになってしまった。しかし、互いに集まりボランティアの方々といっしょに活動を続けている。

釜石支援センター望のニュースレターに掲載された、代表 海老原祐治氏が書かれた文章から、被災された方々の心に残された深い喪失感と共に、生きていく強さも感じられました。

【望ニュース 2025 月 9 日号に掲載された記事より抜粋】

『今年も3.11(3 月 11 日)が来ました。14 回目です。14 年という数字だけ見ればものすごく長い気がします。…しかし当事者である被災者や、その近くにいる我々支援者にはあつという間に感じられます。すべてを奪っていった震災が、家も家族も大事な物すべてをさらっていった津波が、まだ昨日のこのように、脳裏をよぎるそうです。それは 14 年間とぎれることなく続いています。この悲しみを、あるいは怒りをどこにぶつけばいいかわからずにいるのが被災者の心持です。14 年間こころの中で行ったり来たりを繰り返しながら、解決できない問題と向かい合っています。…このように被災者の方々はそれぞれに折り合いをつけて生きています。喪失を懼れたり逃げたりせずに折り合いをつけて生きています。私はその姿に敬意を表します』。



「NPO 法人 ワンダイム」 中部教区

長野県小布施町にある新生会病院はカナダミッションの精神を受け継いで、海外医療協力を継続的に行っている。今年も下記の通り計画している。

- ・場所: バングラデシュのダッカにある「ジョイラムクラ・クリスチャン病院」
- ・活動期間: 2025 年 12 月 26 日(金)～2026 年 1 月 4 日(日)8 泊 9 日
- ・派遣医師: 脳外科・歯科・口腔外科・整形外科・形成外科

毎年、治療を必要とする大勢の患者が待っている。昨年は 224 名の治療が行われた。今回、少し心配していることは、バングラデシュで、この時期に総選挙が予定されていること。何か問題があれば、日程を変更することもある。

「国際子ども学校」 中部教区

28 年前、名古屋の繁華街の公園で夜遅くまで遊ぶ子供たちに、声をかけたことがきっかけとなり 1998 年、国際子ども学校 ELCC が誕生した。家族で来日したフィリピン人の子どもたちは、言葉がわからず、学校にも通えず、居場所が無かった。安心して過ごせる居場所が必要でした。自分のルーツを大切にしながら、日本の言葉や習慣に慣れるため、名古屋学生青年センターが設立・運営を開始した。ボランティアの方々を含め、多くの方々と教会・婦人会も応援。熱心な行政への働きかけがあり、地元の小・中学校への入学・編入が認められた。その後、他の自治体にも外国籍の子どもの受け入れが広がっていった。外国人労働者の保護者は安定した仕事を得ることが難しく、学生青年センターも宗教法人のため、公的な援助を受けられない。そのため、運営資金不足が問題です。2024 年度は 5 歳から 19 歳の 24 名が在籍。平日午前 9:50～14:30 フィリピン人教師 1 人と非常勤教師 1 名の他は 20 名ほどのボランティアが担当。最近は義務教育年齢を過ぎて来日する子どもが、増える傾向にあり、ELCC の仲間と共に過ごす時間は子どもたちにとって、安心できる居場所となっている。

「へり基地反対協の働きのために」 沖縄教区

- ・沖縄県には、日本国内の米軍基地の 70%が集中している。
- ・県民の 9 割が暮らす沖縄本島の 15%を基地が占めている。
- ・沖縄県民の 7 割が辺野古の基地建設反対の声を上げて、基地の工事が始まっている。「80 年前、多くの命が失われた沖縄で、「命(ぬち) どう宝」を語り継ぐ沖縄の人々の心からの願いは「基地はいらない」。
- ・2025/8/2 米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古移設に抗議する集会が 8 月 2 日、移設工事現場に隣接する米軍キャンプ・シュワブのゲート前で開かれた。工事の本格着手から 8 月 20 日で 1 年となるのを前に、住民や国会議員ら約 600 人(主催者発表)が「新基地建設反対」を訴えた。

2025 年日本聖公会 沖縄週間/沖縄の旅」に参加して

感謝箱献金事務局 運営委員長 井田涼子

戦後 80 年を迎える今年は例年にも増して、戦争に関わる話題が新聞やテレビなどで取り上げられ、高齢化により、戦争の記憶が消えていくことへの不安の声も聞かれました。

改めて自分自身をふり返ると、沖縄の基地問題に関して、知らないことが多い事に気づき、「沖縄の旅に参加したい」という思いが湧いてきました。

- ① 戦争を昔話にしない。
- ② 今、世界で起きている戦争は他人事ではなく、どこかで自分と繋がっている。
- ③ 日本は平和を求めてどのように歩むのか。という思いです。

今思うことは、沖縄に行ったことで、何かがわかったということではなく、ここで生活している人々が、このような被害や困ることに日々、曝されている。そのことに関心を向けるようになりました。何もできなくても、心を向けることから始まる。

「主の祈り」のうちに、このことを覚えて、祈りましょう。

- 沖縄に基地が無くなる日が来ますように。
- 世界中の戦争がやみ、主イエスの愛と許しによって、和解と平和に導かれますように。
- 子どもたちの生命と健康が守られ、必要な支援が届きますように。
- 日本が他国との問題解決のために、武力を用いることがありませんように。

平和祈念公園にて



『感謝箱献金ハンドブック 2025』をご活用ください

2025 年度の感謝箱献金のお献げ先、感謝箱献金の祈り、感謝箱献金の送り先、感謝箱献金事務局の連絡先などを載せています。教会や婦人会で、感謝箱献金を呼びかける時にお使いください。また、秋の行事の時など、「感謝箱献金の紹介コーナー」開いてみるのはいかがでしょうか。私たちの日々の感謝箱献金は世界とつながっています。

その活動によって、小さな平和を呼びかけ続けています。

ハンドブックや感謝箱をご希望の方は感謝箱献金事務局までご連絡ください。



編集後記

関西万博が開催され賑わいの大阪ですが、そうした中でも国と国の争い、被害をうける人々が世界中にいます。特に万博のコモンズといわれるパビリオンの中にはそうした国のブースもあります。それらの国々の人々が、心から喜んで万博などに参加できますように願ひ、私たちの献金がいかにされますように祈ります。

挿絵はサイディア・フラハの子どもが描いたものです。

中尾由紀子

【お詫びと訂正】「ガラヤのほとり 43 号」8 ページ「感謝箱とわたし」欄。
大倉有紀聖職候補生の「ウィリアムス神学館 3 年」部分の削除。お詫びして訂正します。

日本聖公会婦人会感謝箱献金事務局
〒520-2331
滋賀県野洲市小篠原 847-6 井田涼子方
TEL/FAX 077-599-3728
E-mail suzuko@da2.so-net.ne.jp